

秋たけて健兒の意氣のあがる時かへりみ祝ふ二十年の榮

寄 船 祝

荒波を蹴たてけたてゝ二十年の齡經たる船の行く手幸あれ

大空の光もまさる秋にしてほぎ歌うたふ今日の嬉しさ

一、二、甲 吉 鹿 善 郎

年を逐うて緑いやます松こそはわが學びやの千代の友なれ

紫 吟社句録

蜻 蛉

野市果てし假屋を板の蜻蛉かな

江 村

怒羅張るも野祭近し赤蜻蛉

全

押し汐に葭根の泡や赤蜻蛉

全

沖風や肩摺り松に飛ぶ蜻蛉

八葉葵

移り住んで兒の物真似や飛ぶ蜻蛉

春 草

川風の翻す霧やとぶ蜻蛉

滴々

寺印得しを寺寶見たさや飛ぶ蜻蛉

水 郷

大農車馳る長鞭や飛ぶ蜻蛉

全

秋の雨

秋雨や塵捨て洞の毒草も  
拾ひ來し失せ鎌の錆や秋の雨  
水落ちし跡の藻草や秋の雨  
消毒器の湯氣白う今日も秋の雨  
何觸れて琴の空音や秋の雨  
秋雨や大竅底の邪宗門  
何時割れし古刹の遺牌や秋の雨  
木醋も香に立つ包厨や秋の雨  
凝想の吾に煤落つ秋の雨

江 村  
全  
滴々  
白 人  
春 草  
八葉葵  
布 水  
水 郷  
全

残 暑

搾乳も唾者の仕事や秋暑し  
鬪雞に蓼湯も煮るや秋暑し

八葉葵  
全

水標鳥芥を鳴けり秋暑く  
刈藻干せば小き花咲く残暑哉  
春草

玉に佛彫る心願や秋暑し  
全

畫架を置く河原の繪師や秋暑し  
布水

梁組む日残暑の土の息れけり  
白人

秋暑し村次々に押す病  
瘦脚

石を何とほさむ蟹あり秋暑し  
水郷

(伊勢灣口)

海月湧く秋暑し雲も黄に錆びて  
全

蘆の花

浮鳥と言ふに疑念や芦の花  
春草

移民小屋取あへず葺くに芦花さにも  
全

月あるに異な雨や蘆の穂も鳴りて  
八葉葵

傍係の兒の葬ひや芦の花  
全

塔費エ村の負擔や芦の花  
瘦脚

御下向の沿路の公事や芦の花  
全

高沙に洗はるゝ薪や芦の花  
文者

(畫論)

閨秀の筆勢を聲も穂に咲いて  
水郷

### 夏秋雜吟

八葉葵

國を分つ川涸れ涸れて雲の峯

夏山に霽はれて女瀧男瀧哉

銀鱗の水車に光る青田かな

銀河澄む肩摺れ松も江に沿ひて

海樓に酒氣滿てば銀河動きけり

湖邊の松湖邊の城や天の川

戰機見る秘事も銀河を飛ぶ星に

○

江村

日温みを鳥音も霧のまばら木に

研ぎすますもの乃しこぼれを冷かな

秋の聲背戸くむ潮の桶底に

鳥宮司訪はんに鹿の連れ寄りて

汐近う拗ね木もかほご鹿群れて

鳥井茶屋とて鹿に團子の串數も

濱住みを井も塩はゆし蕎麥の花

去りし人に夜を長う雨の降り繼いで

祝二十週年記念祭